日刊 動労千葉

動労千葉結成10周年！

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話 （鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

1989.10.9 No. 号外

大会速報

変革の９０年代をきり拓く、新たな時代の労働運動を創造しよう！

第16回定期大会始まる

動労千葉第十六回定期大会は十月八日十三時より、役員・代議員・傍聴者一七〇名の結集のもと「のさか望洋荘」にて、九〇年代の闘う方針を確立するべく、開始された。（内容詳細は次号）

大会第一日目を活発な討論で成功させよう

大会第一日／委員長あいさつ

今一六回定期大会は、動労千葉結成十年間のうちでも節目として重要な大会です。

結成し「八十年代を闘う自前の労働運動路線」を決定した七九年大会、「分割・民営化」に対してストライキで闘うことを決定した八五年第十二回大会、これらに比しても劣らない重大なものであります。

なりよりも八十年代の闘いを総括し、九十年代をどう闘うか、その路線と方針を確認するものとしてあります。

八十年代が、中曽根の「戦後政治の総決算」攻撃と対決する十年であり、分割・民営化を頂点とするこの攻撃に対し動労千葉は唯一ストに決起して闘いぬき、組織を守り抜いてきました。

その基礎には動労の伝統を守りながら、不可能と言われながらも動労からの分離・独立を闘いぬいた闘う路線と団結力があった。

八十年代は大変な時代であった。

分割・民営化をはじめ、中曽根内閣は総評を叩き潰すことを狙ってきた。

この総決算攻撃に対し、左翼・労働組合は立ち上がることができづ、総評はこの秋解散し新「連合」ができることになった。

だが国鉄労働者は不屈に闘い抜いてきた。

闘う橋頭保を持ちながら九十年代を迎えようとしている。

こうした時期に今大会を成功させ、九十年代に突入する団結力を創ろう。

変革の九〇年代をきりひらこう

九十年代はどういう時代か。

米・ソによる戦後世界体制がなによりも米・ソの深部から大きく崩壊する時代―これが九十年代の特徴となっている。

米国は八八年十月のブラックマンデーで大きく揺らぎ、最大の借金国に転落した。

ソ連では国内でストの激発があり、ペレストロイカを叫んでもダメになっている。

こうした戦後支配体制が音を立てて崩れる時、労働運動を体制的にからめとるものとして新「連合」がある。ＪＲ総連の姿にはっきりしている。

「連合」は支配者にとって最大の敵である労働組合を支配するものであり、今後も続くだろう。九十年代はこうした攻撃との対決になる。敵も矛盾をかかえながら九十年代を迎える。

敵の弱点を見据えて闘い抜く時代認識を持ち、八十年代の闘いの総括の基軸をうちたててほしい。

むこう一年が正念場

むこう一年間の闘いこそ、動労千葉の方向を決定します。

具体的には第一に、清算事業団をめぐる攻防に勝利することです。動労千葉十二名、全国二千五百名を我々のもとに奪還できるか。二度の解雇を許してはならない。本人・家族の苦闘に組織をあげて闘おう。十二名を先頭にたてて闘い抜く。これが最も重要である。今度こそ決着をつけるため、運転でストライキを。この方針を決定しよう。これが公労法解雇二八名の闘いに連動する。

第二に、ＪＲ本体の闘いをまきおこそう。労働条件は五年間で三十年前にもどった。要員は半分になり、労働強化や考えられない事故が起きている。反合・運転保安闘争の再構築をつくりだそう。

国鉄年金の問題、六十才定年の実現、権利奪還など清算事業団闘争と結合して闘い抜こう。

今のＪＲ東日本の姿勢はガマンならない、職場の闘いに全力をあげよう。これが決着しない限り、分割・民営化阻止は終わらない。ストライキを辞さず闘おう。

第三に、労働戦線の問題です。九月二四日、県労連大会で解散が決定された。本来労働組合とは開かれた存在でなければならない。ところが主要組合がのきなみ分裂している。これが「連合」の正体だ。

動労千葉は「県連合」には参加しない。県労連センターに入りこれまで通りやっていく。全国労組交流センターを結成したが、当面一万人組織にしていこう。全支部・全組合員が全国へうってでよう。

第四に、組織の団結強化と拡大、財政基盤の確立です。三十四名の解雇者はいろんな所で奮闘している。今後、新しい闘いに入る。全組合員がこのことを共有し、もう一段レベルの高い闘いを創りだそう。

更に今大会を期して冬の物販を開始しよう。八回目になるこの冬が勝負。全国にうってでよう。

最後に「一人ひとりが活動家に」を実践しよう。全組合員が役員まかせではなく、自らをうち鍛えよう。九十年代の闘いを担い抜く、動労千葉を結成した時と同じ気持ちをもって、全組合員が闘おう。

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した１０年！